

課題

【算数・数学】数量や図形などに関する基礎的・基本的な概念や性質の理解、計算等で事象を正確に処理する技能が定着しない。

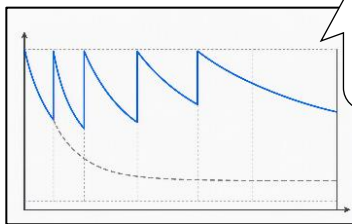
手立て

- ①意図的・計画的に復習する機会を設けることで、学習内容の定着を促進する。
- ②児童生徒が自分の学習状況に応じて、学びを選択できるようにする。

具体例

POINT①

意図的・計画的に復習する機会を設けることで、学習内容の定着を促進する。(認知心理学の知見に基づく「分散学習」の例)



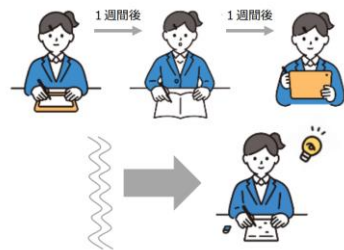
ドイツの心理学者エビングハウス等の研究を参考によると、復習しなかった場合(点線)に比べ、計画的に復習した場合(青)では、一度覚えたことを再度覚えるためにかかる時間が短く済むとされています。

△今、学習している単元は宿題を出す、終わった単元はしばらく学習しない。だから次の機会に思い出せない。

改善

分散学習

時間の間隔を空けて復習することで、長期的に学習内容を定着しやすくする



【朝学習などの時間(週1回、15分)で行う例】

- ①既に学習した単元の中から3単元選び、基礎的・基本的な知識及び技能の問題について、各単元3問(全部で9問)を解く。
- ②自己採点后、必ず解き直す。

※次回は、3単元のうち1単元を他の単元の問題に入れ替える。これを繰り返していくことで、長期的に復習する機会を設定できる。

上の「分散学習」のように、認知心理学の知見に基づく効果的な学習方略の例は、文部科学省の「令和8年1月23日算数・数学WG参考資料1『個に応じた学習過程の充実について』」の7枚目に紹介されています。

(https://www.mext.go.jp/content/20260123-mext_kyoiku01-000046916_05.pdf)

POINT② 児童生徒が自分の学習状況に応じて、学びを選択できるようにする。

(例)「POINT①」に示した、分散学習の内容について、自分に必要な学びを選択

【選択課題A】

基礎的・基本的な知識及び技能の問題に挑戦!

【選択課題B】

思考力、判断力、表現力等の問題や記述力が必要な問題に挑戦!
※問題の数は各単元1問にするなど、活動時間を考慮して設定する。

この前は記述する問題に取り組んだけど、計算ミスが続いたから、課題Aに戻ろうかな。



いつもミスなく取り組むことができていますね。次回の課題は、AとBのどちらで取り組むか考えていますか?



次回は記述問題の課題Bにチャレンジしようと思います!



児童生徒が学びを自己決定していく。教師は取組の記録や当日の様子から児童生徒の成長やつまずきを見取り、個に応じて働きかけていくようにする。